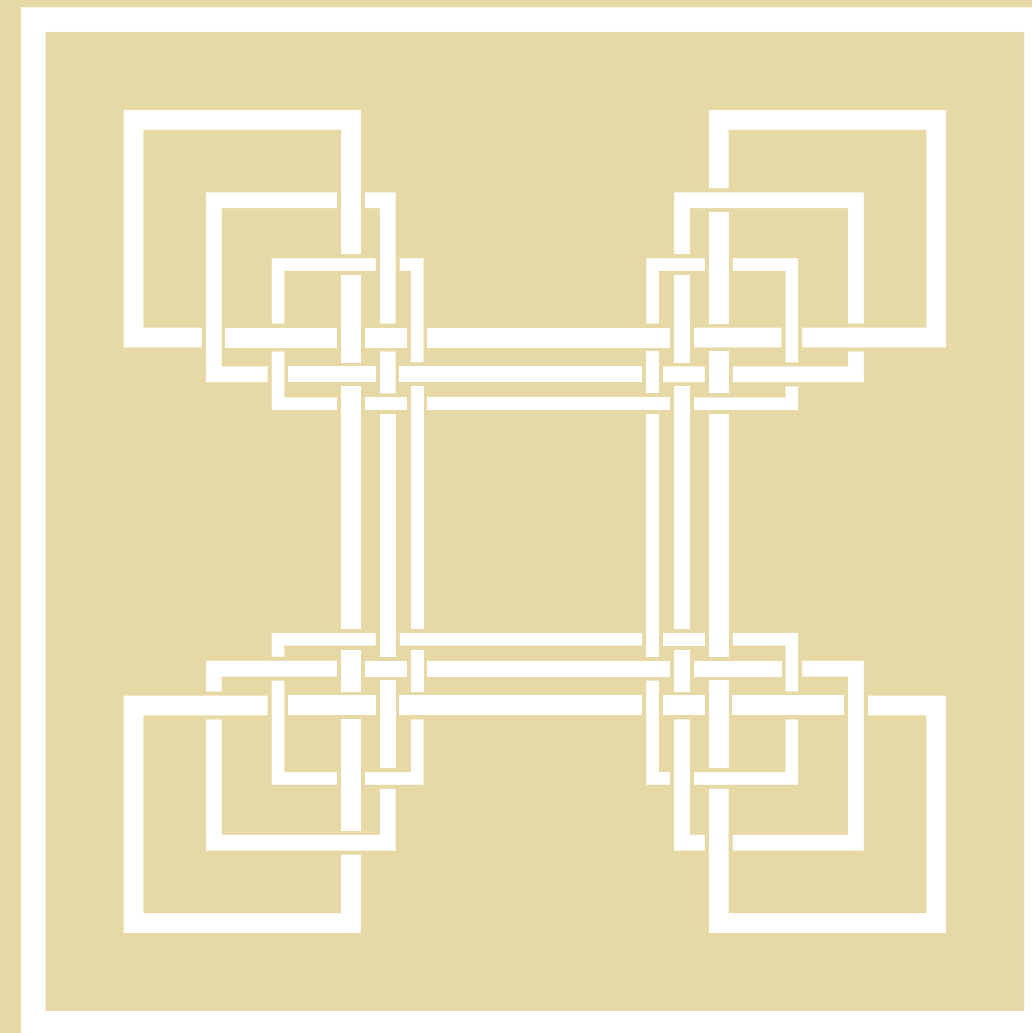




2020.08



しんゆう

たんぼう

深遊 探訪

この国は広くはない。

でも、この国は広い。そして深い。

四季、二十四節気をまたぐ、
多彩で気まぐれな自然の気質。

そこに、その土地土地に生きる人々の
表情や知恵や文化が滔々と息づいている。

この国は、分かり易くはない。

だからこそ「その奥、にある何か」への興味は尽きない。

時も季節も常に変化する。

ひとやものが次々と生まれ、
その役割を果たし、そして淡々と消えていく。

この国にはその連なりを

「うつろい」という概念で受け容れ、

千載一遇のこと、奥深きこととしてきた
類まれな感覚がある。

深く深く、その季節と場所を訪れ、
そこで出会う時どきのうつろいを、愛でる。

それこそが、この国、殊に東の日本を旅する
究極の醍醐味ではなからうかと思う。

私たちJR東日本は、
そう思う人の感性に真っ向から応え、
その人の人生の今までにない
体験と発見をもたらす旅をつくりたい。

「まだ、知らないことがあった、という幸福。」を、
実感する道程へ。

日本の奥の深さと出会い、

時どきのうつろいを愛でる。

人生の今までにない体験と発見を、
鉄道の旅で。

かつてない感動に出会う。
いま、TRAIN SUITE 四季島
ならではの旅へ。

日本には、色鮮やかに移り変わる四季がある。
その中で育まれた文化や芸術、風習。
そして、長い歳月をかけて研ぎ澄ませてきた、人々の繊細な感性。
時間と空間の移り変わりを楽しむ
「TRAIN SUITE 四季島」での上質な体験は、
日本のクルーズトレインでしか出会うことのできない
この四季がもたらす恩恵を、享受し尽くすことに他ならない。

「今までの人生で、最高の体験だった」
乗る人の記憶に、いつまでも残り続ける旅をめざして。
黄金色に輝く列車が、静かに走り出す。

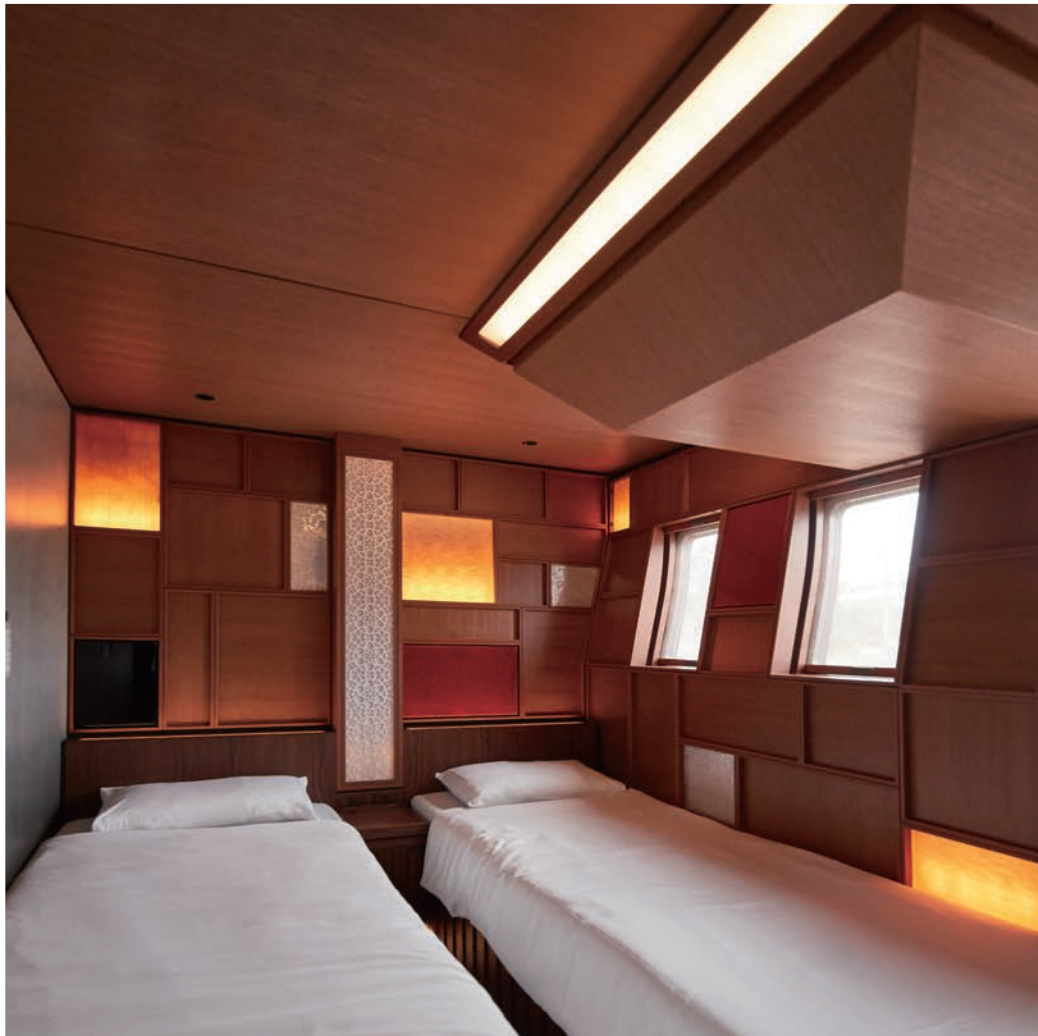


PROLOGUE SHIKI-SHIMA

旅の始まりも上質に、
「プロローグ 四季島」

旅の起点となる上野駅に、これから「TRAIN SUITE 四季島」の旅にご出発いただくお客さま専用のラウンジ「プロローグ 四季島」をご用意しております。洗練されたインテリアと、温かみのある照明デザイン。これから始まる感動体験を予感させる、深い落ち着きに満ちています。また、「TRAIN SUITE 四季島」へは目の前に設けた専用の「新たな旅立ちの13.5 番線ホーム」からご乗車いただきます。





WELCOME TO
TRAIN SUITE SHIKI-SHIMA

おもてなしを極めた、
豊かで上質な旅時間へ。



四季島スイート(メゾネットタイプ)

SHIKI-SHIMA SUITE ROOM
“MAISONETTE TYPE”

和室でくつろぎ、格別の眺めを楽しむ。
夜は階下で、深い落ち着きにつつまれる。

四季島スイートは、見晴らしのいい2階と、落ち着いた空間が安らぎをもたらす1階の、2つのフロアで構成されています。掘りごたつ風のテーブルがある和の空間で、刻々とうつろう風景を眺める体験は、まさにここでしか味わえない非日常。夜は特製の檜風呂で、リラックスした時間をお過ごしください。



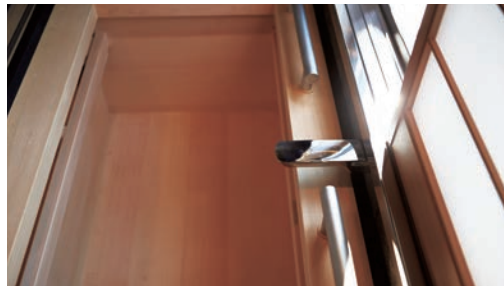
四季島スイート
(メゾネットタイプ)



DELUXE SUITE ROOM
“FLAT TYPE”

和の意匠と素材が織りなすモダンな空間が、
風雅な時間を演出する。

空間の贅沢さと上質さをテーマとしたデラックス
スイート。日本古来の柄や木を使いながら、和紙、
漆、石などさまざまな素材を組み合わせ、クラシカル
だけではなく、モダンで洗練された雰囲気を演出
しています。「走るアート」とも呼べる空間が生み
出す、特別な旅情をお楽しみください。



デラックススイート
(フラットタイプ)



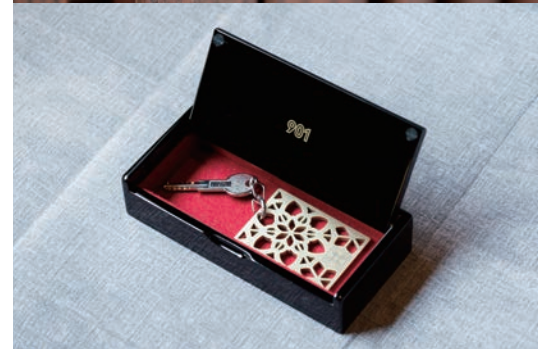
デラックススイート(フラットタイプ)



SUITE ROOM

日本の美意識を随所に盛り込みながら、
洗練さとのびやかさをまとった空間へ。

時間と空間の移り変わりを楽しむための舞台である
「TRAIN SUITE 四季島」の客室は、全室がスイート
ルーム以上。伝統的な和の美意識のエッセンスをとり
いれつつ、同時に未来へと向かう意志を感じさせる
デザインです。季節や時のうつろいを体感できる親密感に
満ちた空間で、忘れられない時間が過ぎていきます。



スイート



スイート



中村 勝宏

Katsuhiro Nakamura

総監修

岩崎 均

Hitoshi Iwasaki

監修

「TRAIN SUITE 四季島」で提供するお食事は、日本人として初めてフランスでミシュラン一つ星を獲得し、2008年北海道洞爺湖サミットでは総料理長を務め、2016年にはフランス共和国農事功労章の最高位「コマンドゥール」を受章した、JR東日本グループ「日本ホテル株式会社」統括名誉総料理長・中村勝宏が総監修をいたします。また、「TRAIN SUITE 四季島」の初代総料理長を務めた岩崎均がその経験を活かし、監修としてサポートを行います。



佐藤 滋

Shigeru Sato

総料理長

総料理長には、歴史ある「東京ステーションホテル」副総料理長を務め、2017年に世界の料理人がフランスで腕を競う「第 67 回プロスペール・モンタニエ国際料理コンクール」で準優勝を果たした佐藤滋が就任し、車内でその腕を振ります。



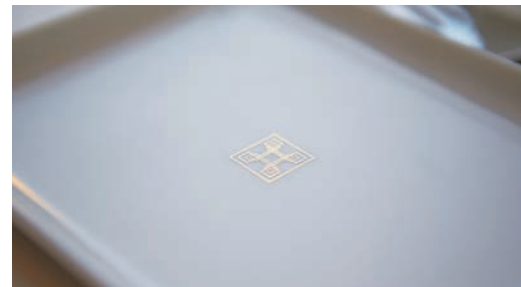
DINING しきしま

旬の素材をあじわう、
その土地だけの出会い。



東日本各地の旬の滋味をとりいれた、
心づくしの料理がテーブルを彩る。

その土地ならではの料理や食材との出会いは、旅の感動をより深めてくれるもの。「TRAIN SUITE 四季島」では、行く先々で、時には地元の料理人が車内に乗り込み、こだわりの料理を提供するなど、3名のシェフと地域を代表する料理人の力を結集し、地域とのつながりや特別感を随所に演出した料理をお届けいたします。



食事



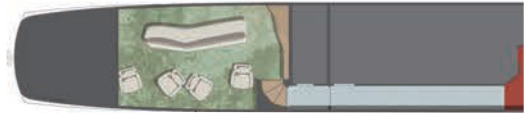
流れゆく自然の風景を、
臨場感たっぷりに楽しむ。

VIEW TERRACE きざし・いぶき / LOUNGE こもれび

展望車 / ラウンジ

雄大な自然を背景に、
開放感と高揚感あふれる空間をデザイン。

未来へ進む意志を、光のかけらのような窓で表現した
開放的な展望車。空に向かって枝を伸ばす樹木を
イメージさせる、洗練されたラウンジ。車両ごとの快適
さを象徴する内部形状が細部にわたるインテリア
にも表され、旅の高揚感や非日常の時間をいっそう
盛り上げます。





TRAIN CREW

「TRAIN SUITE 四季島」の
おもてなしを体現する、
唯一無二の存在。

「TRAIN SUITE 四季島」の上質な空間の中で、
安らぎを感じながらおくつろぎいただくために。

ダイニングでの料理のサービス、ベッドメイキングなど
のお部屋の設え、さらには、立ち寄り先での観光アテ
ンドまで承るのがトレインクルーです。旅の始まりから
終わりまで、お客さまお一人おひとりの気持ちに寄
り添った、オーダーメイドのサービスをご提供します。
高級ホテルにもひけをとらない、洗練されたホスピタ
リティをご堪能ください。

トレインクルー

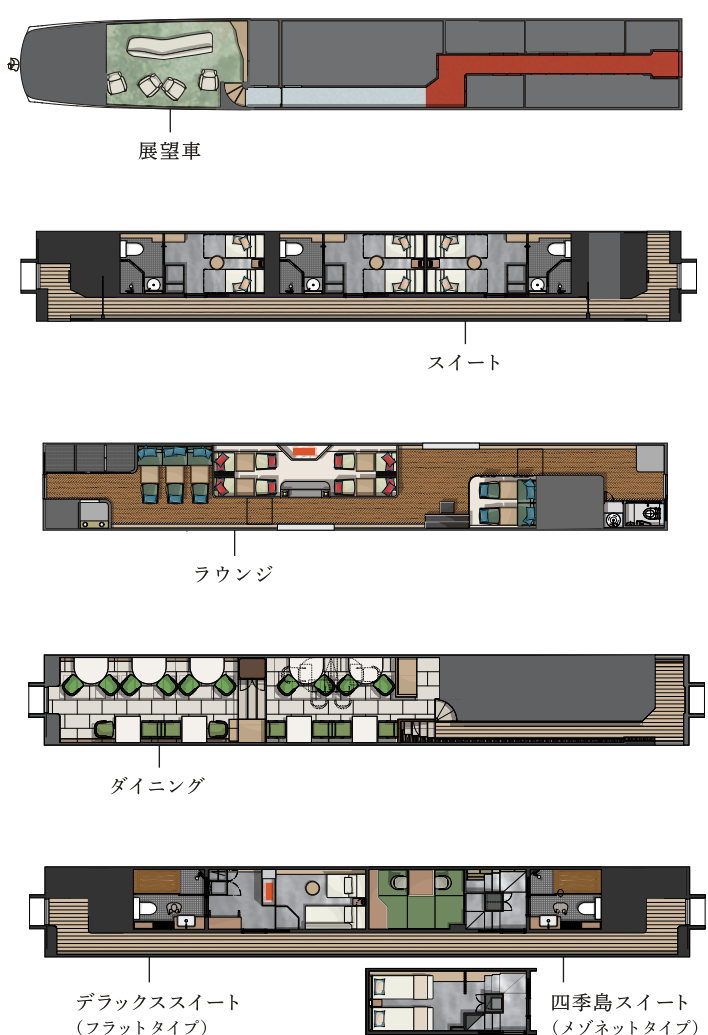


滝沢 直己

Naoki Takizawa

ユニフォームデザイン / NAOKI TAKIZAWA DESIGN INC. 代表

1960年東京生まれ。ファッションデザイナー。「ISSEY MIYAKE」のクリエイティブディ
レクター（メンズ1993-2000年、レディース2000-2007年）を経て、2007年に独立。
2010年から上皇后陛下の衣装デザインを担当。2011年よりユニクロのデザインディ
レクターに就任し、2014年からはスペシャルプロジェクトのデザインディレクターと
して活動している。2007年フランス芸術文化シュバリエ勲章受章。2009年東京大学
総合研究博物館 / インターメディアテク寄附研究部門特任教授に就任（～2013年）。



EXTERIOR DESIGN

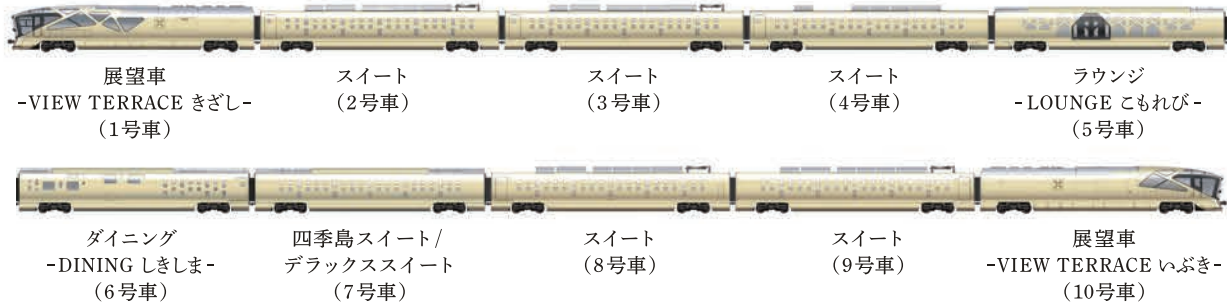
車両デザイン



奥山 清行
Kiyoyuki Ken Okuyama
デザインプロデュースおよび車両デザイン / KEN OKUYAMA DESIGN 代表
1959年山形市生まれ。ゼネラルモーターズ社（米）チーフデザイナー、ボルシェ社（独）シニアデザイナー、ピニンファリーナ社（伊）デザインディレクターなどを経て、2007年 KEN OKUYAMA DESIGN を設立。山形・東京・ロサンゼルスを拠点に、企業コンサルティングのほか、自身のブランドで自動車・インテリアプロダクト・眼鏡の開発から販売までを行う。著作多数。講演も行う。

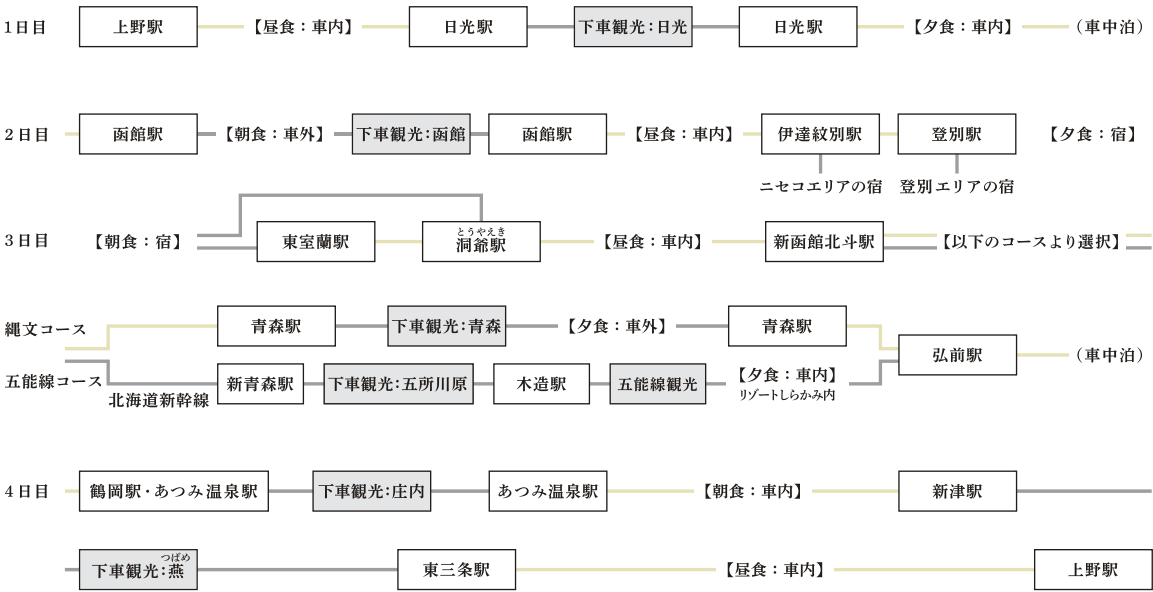
いくつもの窓形状で構成された
ユニークな外観が、
この旅のさまざまな体験を予感させる。

シャンパンゴールドの外装に、4面ガラス張りの先頭車両。この旅でしか味わえないエクスペリエンスを盛り込みながら開発された特注車両です。「美しい日本」、「豊かな時間と空間」、そして「日本の文化」を楽しむこの列車は、さりげなく深い知の感動を与える舞台として、世界最高クラスのクルーズトレインとなります。



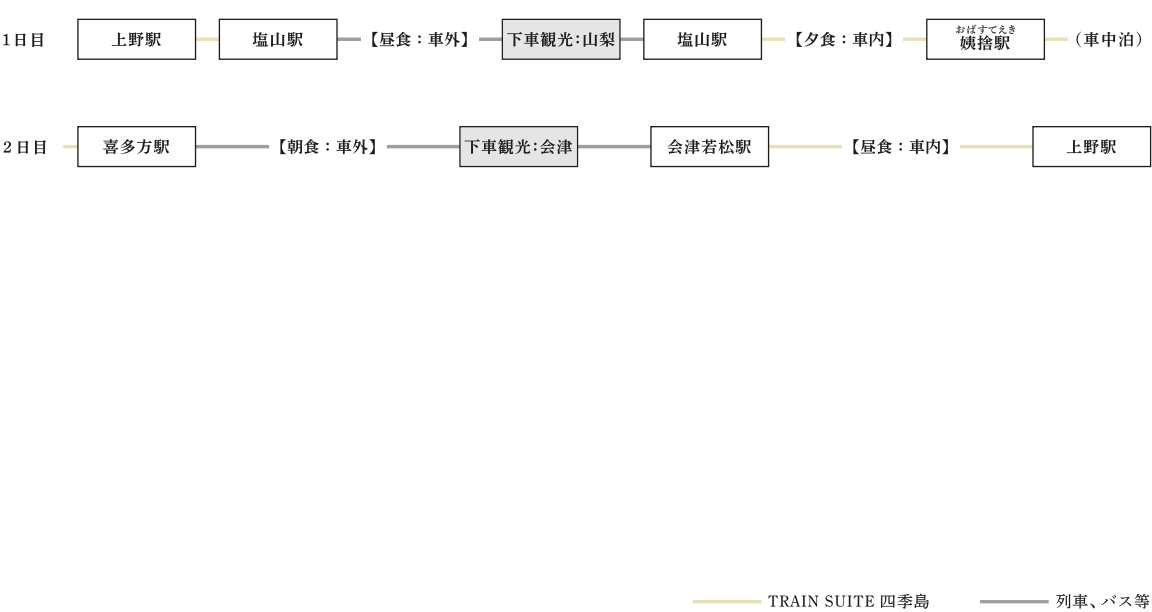
3泊4日コース（4月～9月）

豊かな自然が四季折々に見せる風景や、自然と共にある暮らしや文化にふれる旅



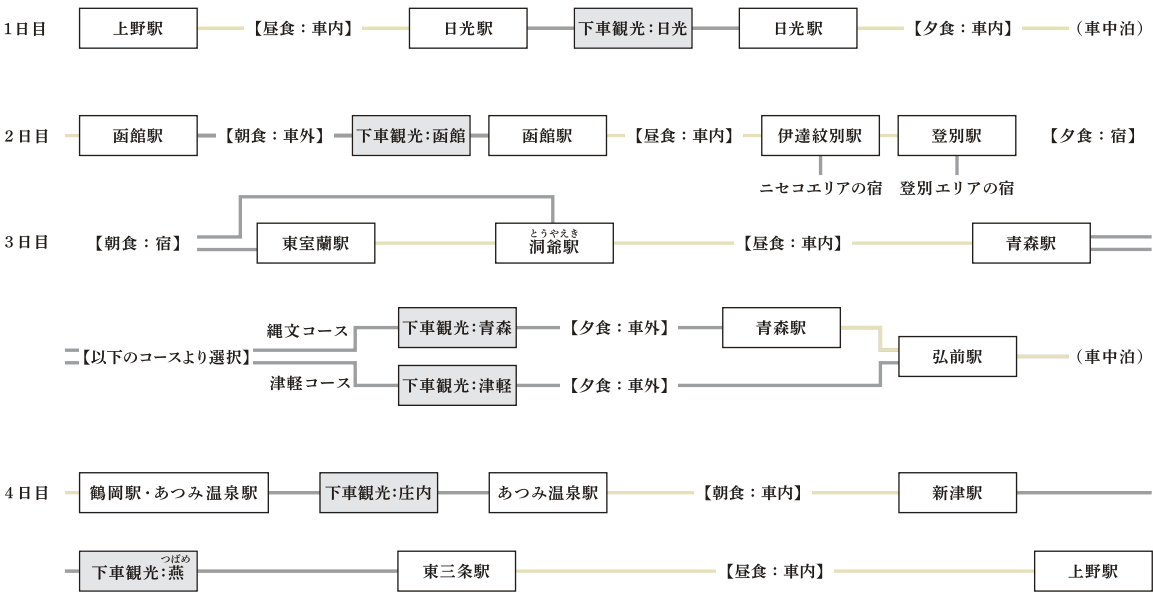
1泊2日コース

里山、棚田、ぶどう畑などのぬくもりのある風景や、その地に息づく工芸品の粋を味わう旅



3泊4日コース（10月～11月）

豊かな自然が四季折々に見せる風景や、自然と共にある暮らしや文化にふれる旅



SIGHTSEEING

歴史ある土地に凜と佇む

日光駅

〔3泊4日 1日目〕

奈良の昔より、山岳信仰の中心として栄えてきた日光。江戸時代、この地に家康公を祀る社殿が建てられ、明治以降も世界的な観光地としての歴史を歩んできた。1999年、世界文化遺産に登録。東照宮、輪王寺などの絢爛豪華な社寺と、神々しいまでの自然が、見事に融合していると評価されていることであつた。この日光の玄関、大正元年に落成した2代目日光駅は今も現役。大正天皇がお使いになられた貴賓室も残る佇まいは時空を超えた旅を感じさせる。

祖母から母、母から娘へ

アイヌの文様

〔3泊4日 2日目〕

アイヌの民族衣装を飾る文様は魔よけの力があると信じられ、母から娘へと代々伝えられたもの。幼い少女のころから図案を学び、布を糸で刺し、布を切り抜き、あるいは別の布を貼り合わせてきた。男たちはマキリで文様を彫り、日常の木製道具を飾った。簡素な線がいくつも組み合わせ、ダイナミックで複雑な文様となり、宇宙の深淵をのぞかせる。



*市立函館博物館蔵

悠久の時間を感じる

三内丸山遺跡

〔3泊4日 3日目 縄文コース〕

今から約5,900年前～4,200年前の縄文時代の集落跡。1992年からの発掘調査で、竪穴建物跡、大型竪穴建物跡、墓、道路跡などのほか、膨大な量の縄文土器、土偶、ヒスイ製の玉などが出土している。ヒョウタン、ゴボウ、マメなどの栽培植物が出土し、DNA分析により、クリの栽培が明らかになるなど、数多くの発見が、縄文文化のイメージを変えることとなった。専門ガイドが縄文の太古の世界へと誘う。



海と山のあいだを駆ける

五能線

〔3泊4日(4月～9月) 3日目 五能線コース〕

青森から秋田の日本海に沿って走る五能線。風光明媚な日本海の眺めと、世界遺産・白神山地の眺めを同時に楽しむことができる。「日本の夕日百選」に認定されている千畳敷や、広戸から深浦にかけて奇岩・怪石が連なる海岸線の様子は、太宰治の「津軽」にも描かれている。せわしく過ぎる日々を離れ、移ろう景色をただただ眺める時間は、最高の癒しに違いない。



無垢材と手づくりのぬくもり

わにもっこ

〔3泊4日(10月～11月) 3日目 津軽コース〕

大自然に囲まれ、古くから林業、製材業が盛んな青森県大鰐町。「わにもっこ」は、地元の豊富なヒバやブナを素材に、無垢の木の注文家具や木工製品を製作する工房。南津軽の里山の環境を守りながら、あくまでもハンドメイドに徹して製作しており、その作品には自然のぬくもりやあたたかさ、優しさを 느낄 수 있습니다。工房見学では、シンプルでセンスの光る家具や自然素材の魅力をみて、触れて、感じたい。



銅を操る手わざの熟練

ついきどうき

鍛起銅器

つちで銅を叩く音が作業場に絶え間なく響く。一枚の銅板が思いのままの曲線に形を変えていく。打ち、焼き、さらに打つ。鍛で打ち締め、コークスの火でやわらげる。気が遠くなるほどの工程の積み重ねは200年前に新潟・燕の地に伝えられたもの。長い時間をかけて完成した技術の結晶として、昔ながらの手仕事で一つひとつ、つくられる日常のうつわは、目に美しく、手にも唇にも優しい。



世界が注目する山梨のワイン

甲府盆地のぶどう畑

〔1泊2日 1日目〕

水はけ、日当たり、風通しがいずれも良い。最適な地形と気候をいかし、甲府盆地では古くからぶどうが栽培されてきた。ワインづくりの始まりは明治。醸造技術を学ぶため、2人の青年がフランスに派遣された。いま、山梨県内にはおよそ80のワイナリーがある。千年以上の歴史を持つとされる日本固有の品種である「甲州」種がワイン醸造のぶどう品種として、2010年、パリのOIV（国際ぶどう・ワイン機構）に登録され、甲州ワインは、EU各国へ輸出されるようになった。さわやかな果実味と酸味で日本料理にも合う「甲州ワイン」の注目度はこの10年で劇的に高まっている。



棚田に映る幽玄の月

おばすて

姨捨

〔1泊2日 1日目〕

姨捨山伝説の名をいただく山里の傾斜をいかして段々につくられた棚田。田んぼになみなみと水が張られる5月、6月になると、区切られた水面に月が映り込む「田毎（たごと）の月」が見られる。駅から望む棚田と善光寺平の眺望は日本三大車窓のひとつとしても知られ、特に夜景は「日本夜景遺産」にも選ばれている。姨捨駅のホームには、この夜景を楽しむためのバーラウンジ「更級の月」が設けられており、長野の地酒やワインを味わいながら、幻想的なまでの美しさに酔うことができる。地元のヒノキを使ったハイテーブル、地元の木工芸家がデザインした家具など、内部にも見所は尽きない。



かたくなな気風とこだわり

会津漆器

〔1泊2日 2日目〕

会津漆器の歴史は蒲生氏郷公の会津移封からはじまる。会津の地に蒲生の元領地であった近江から木地師や塗師を呼び寄せ、会津塗の技術は飛躍的に進化を遂げることとなった。また、会津絵とも呼ばれる絵に立体感を持たせた漆器が生まれたのは、江戸中期。まるで「漆」を盛ったようにみえる金箔蒔絵の華麗さと立体感が人々を魅了する。朝の凜とした空気の中で、伝統の漆器で味わう会津の幸。うつわが丁寧に調理された素材な味わいを引き立て、かたくなな会津の気風とこだわりを感じさせる。





ご縁を大切に、
長いお付き合いを。

「TRAIN SUITE 四季島」の旅を通して生まれたお客さま同士のご縁、お客さまとクルーとのご縁をこれからも大切に育んでいければと思っております。皆さまとまたお会いできる日を心よりお待ちしております。

*掲載の写真・イラストはすべてイメージです。
*このパンフレットの情報は、2020年8月現在のものです。

